

(別紙)

2023年度(令和5年度)幼稚園評価自己評価表

最終更新日	2023年(令和5年) 3月30日
-------	-------------------

園番 33	福山市立 新涯 幼稚園
-------	-------------

1 幼稚園教育目標

感性豊かに生き生きと遊び、友だちの中で育ちあう子どもを育てる

2 目指す自園の幼稚園像(ビジョン)

- ・笑顔で登園し、元気いっぱい遊ぶことができる幼稚園
- ・小学校へ向けて「幼児教育において育みたい資質・能力」を育てる幼稚園
- ・教師が資質向上に努め、協同して教育推進に努める幼稚園
- ・保護者や地域の人に信頼され、安心して子どもを預けることができる幼稚園

3 目指す幼児像

- ・自分らしくのびのびと遊ぶ子ども
- ・自分で考え行動する子ども
- ・好奇心豊かでやさしい子ども

4 自園の現状分析(地域環境・園の環境・幼児観・保護者、地域との連携協力・現状課題など)

元々新涯地域は、福山市郊外の田園地域であったが、近年都市化が進み、事業所や商業施設、住宅が立ち並び、幼児をとりまく環境は年々変化してきている。少子化、核家族化が進んでいく中で、人とのかかわりが希薄になり自分の思いが表現できにくい、友だちとの遊び方がわからないなど、幼児の中にも大きな変化がみられる。さらに、感染症対策のため交流活動が規制される状況のなか3年が経過し、生活体験や感動的な体験などが少なく、思いをゆったり受けとめてもらえることが少ないことから、不安定な行動をとったり、根気強さにかけていたりする幼児が多く見られる。また、近隣公立幼稚園の減少により、園児は新涯学区内を中心に隣接する他地域からも通園している状況である。保護者は公立幼稚園の一人一人を大切にしたい教育方針に理解があり、協力的である。

そこで、保護者をはじめ、隣接する新涯小学校との連携、近隣に残る田やクワイ畑農家、老人会等地域の協力を得ながら、園内における一人一人の園児が充実して遊べる環境の工夫や支援を行い、自分から環境に働きかけ人や動植物とのかかわりに喜びを感じ、自分で考え、いろいろな方法で伝え合い、友だちと力を合わせて粘り強く行動できる主体的な子どもに育てていくことが本園に課せられた使命である。

5 今年度の重点目標と設定理由(ビジョン実現のために)

重点目標	設定理由
<ul style="list-style-type: none">・遊びの充実を通して主体的に行動する力や人とかかわる力を育てる。・身近な自然や物とのかかわり、感動体験を通じて、協同的な活動の中で創造的な思考力や豊かな心を育てる。・実践力を高めるため自主的な研究に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・幼児が、友だちや教師とのかかわりの中で安定し、自分の思っていることや考えていることを話したり、共に遊びを考えたりし、楽しく充実した生活を進めていけるようになるため。また、互いのよさをわかり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、楽しく遊びを進めることができるようになるため。・物やこと、自然に興味を持ち、不思議さやおもしろさを感じ集中して根気強く取り組んだり、試したり工夫したりすることによる協同的な活動を通して、学びの基礎的な力を培いたため。・主題「友だちとのかかわりを深め、学びの芽生えを育む保育をめざして」、副題として「心の育ちとことばの育ちを支える環境づくりと教師の援助」について自主的な研究を進めるため。

目標・方策・評価 ※【評価】 A—達成した B—ほぼ達成する C—じゅうぶん達成していない D—達成していない 【生きる力の基礎】—健康・人間関係・環境・言葉・表現

(別紙) 【教師の役割】—計画的な環境構成・活動場面における教師の役割・人材育成 【信頼される幼稚園】—情報提供・他の公共機関との連携・幼児と地域住民との人間関係づくり・教育相談

	3年間の目標	1年間の目標	具体的な方策	評価 (3学期)	評価結果
					○—反省や課題 ◎—改善のための方策
生 き る 力 の 基 礎	身近な環境に自ら関わり、それらを生活に取り入れていこうとするようになる。	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心がもてるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> 外遊び等を積極的にに行い、戸外遊びの楽しさを体験させる。 活動を楽しむ中で、発見や考えることの楽しさを味わい、あきらめずにやり遂げることで達成感が味わえる取組を行う。 	A	○登園後に身支度を済ませてすぐに遊び始める幼児が増えた。季節の身近な自然にふれ発見したことや面白いと感じたことを繰り返し遊びに取り入れて楽しむようになった。
	自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。	<p>体を十分に動かし、進んで外遊びや運動をしようとする子が増える。</p> <p>遊びや、生活の中で、安全で楽しく過ごすために必要なきまりを友だちと考えながら、行動できるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な遊びや生活の中で、体を十分に動かすことで、体力の向上につなげる。 靴箱、教室の清掃や整理整頓に努め、活動の変わり目での片付けの大切さや、持ち物を大切に扱うことの大切さに気付くように促す。 友だちと楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする態度をもつよう促す。 	A	○園庭でおにごっこや遊具などを使ってよく遊ぶようになった。みんなが経験できる場の保障や取り組みの積み重ねから、できなかったことにも挑戦し自発的に体を動かして遊ぶ姿がある。
の 基 礎	人とのかかわりに慣れ、自分の感じたこと、考えたこと、思ったことの概要を表現できる力をつける。	<p>気持ちの良いあいさつができるようになる。</p> <p>絵本に興味をもち、お話好きになるとともに言葉に親しみ、先生や友達の話を注意して聞いたり、相手にわかるように話そうとしたりするようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> あいさつの言葉を登園時や生活の場などで使うよう促し、日常的に出来たことを認める声かけをする。 本の読み聞かせや紙芝居等を毎日する。集中して聞ける環境を整え、話している人の方を向いて終わるまで聞くことを促す。 日常的に見たこと、感じたこと、自分にしてほしいことなどを言葉で伝えることができるよう促す取組を行う。 	A	○使った物の片付けや身辺整理など場の状況に心よにこい幼児には引き続き繰り返しの声かけや支援が必要である。一方で友達の様子をみて、きまりの大切さに気付きながら自分でやってみようとする姿もある。 ◎発達段階に応じて表示等環境構成の工夫をする。
	幼児が興味を持ってかかわっていける環境を構成する。	物・事とのかかわりが楽しめ、意欲を引き出し、興味・関心が広がったり深まったりする環境を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画や月ごとのカリキュラムに基づき、学年の発達や幼児実態、季節等に応じて、興味を持って遊ぶことのできる環境構成を工夫し、週日案に提示する。 	B	○計画内容に対する実際の子ども達の姿や関心の興味関心に応じて、次の振動方法や環境の工夫が見られた。 ◎職員全員が分かりやすく共有できるような話し合いの工夫が必要。
の 役 割	幼児の発達を捉えた保育内容を工夫し実践する。	教育課程に沿って、幼小の接続、3年間を見通した保育実践のために、教育計画の立案、実践、評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> 日々の振り返りから幼児の育ちの現状を踏まえ、教育課程に沿って月ごとの教育計画を立案し、実践を通してどの程度の力がついてきたかの判断基準を明確にして評価する。 	B	○その日の子ども達の姿から明日の保育に向けてのすり合わせはできたが、個々の読み取りから何を大切に育てていくのかを見極め共有する難しさがあった。異年齢のつながりの見直しにも関係している。 ◎一人ひとりの育ちとその内面も深く読み取れるような職員間の振り返りとカリキュラム検討を行う。
	創造的な思考力・言葉や表現力を育てる保育実践のための研究を深める。		<ul style="list-style-type: none"> 園内研究保育やエピソード研修を年2回以上行う。思考力や表現力を育てることについて、研究・実践を行い、保育の実践力を高めていく。 	B	○幼児理解に重点を置いて動画やSOAPのよみとりを用いて年2回の研修を行った。園全体としての教育の方向性の共有化までは十分に至らなかった。 ◎全員が意見を話し合えるような研修の工夫と園内での保育参観など互いに学び合える機会をもつ。
信 頼 さ れ る 幼 稚 園	保護者・地域に新進幼稚園の教育内容への理解を進める。	教育内容や成果を保護者・地域に「たより」やホームページで知らせていく。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へ「園だより」「クラスだより」で月ごとの目標、育ってきた力について知らせる(月1回)。「地域だより」を毎学期1回発行する。ホームページで取組状況について随時発信する。 	A	○写真を多く取り入れ定期的な便りの発信はできていた。持ち帰っても十分に読んでいない保護者もあり、連絡事項などの確認は必要だった。HPについては広く見てもらっており情報発信のツールになっている。 ◎希望懇談などで保護者が相談しやすい機会をもつ。
	子育ての喜びや楽しさを感じることができるよう親への支援をする。	懇談会、教育相談日など子育て交流の場を計画的に設け、「参加してよかった」を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談会、教育相談日、また、毎月1回の未就園児の会「びよびよランド」、園庭開放等を計画的に実施する。日常的な教育相談につながるよう内容を工夫して行い、参加した保護者の思いをアンケートで把握する。 	A	○保護者アンケートでは連携についての肯定的評価は98%だった。家庭支援の必要なケースが複数ありネウボラ等関係機関と連携を図りながら取り組み関係作りに努めた。未就園の会は毎回30組近く参加者があり、園児募集に繋がった。 ◎未就園児の会の内容の工夫と年度初めに保護者の親睦が図れるように検討する。

(別紙)